

# 令和2年度 項目別の自己評価表（専門学校デジタルアーツ仙台）

## 1. 学校の教育目標

専門学校デジタルアーツ仙台は学校教育法に基づき、IT・情報、音楽、音響、声優、ゲーム、CG、イラスト・マンガアニメ、デザインの各分野における専門的な知識と技術はもとより、職業人として必要なマナーや教養を身につけ、国家並びに地域社会に寄与できる人材の育成を行う。

- ① 実学実践の中から自己学習能力を身につけた人材の育成を目指します。
- ② 社会人としてのマナーを身につけた人間性豊かな人材の育成を目指します。
- ③ 社会に貢献できるリーダーシップを持った人材の育成を目指します。

専門学校デジタルアーツ仙台の教育目標は、CAREER COLLEGE です。

CAREER COLLEGE = 「専門力」+「人間力」

CAREER COLLEGE とは、深い専門知識を学ぶ「専門力=キャリア (CAREER)」としなやかな感性、豊かな人間性を学ぶ「人間力=カレッジ (COLLEGE)」です。社会が求める専門教育（知識、技能）の習得はもちろんのこと豊かな「教養」と「コミュニケーション能力」を備えた魅力ある人間教育にあります。

## 2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

学生満足度のアップを目指し、丁寧な指導をベースに「出席率の向上」、「除退率の減少」、「就職率の向上」、「資格取得率の向上」を図ります。また、企業（業界）の意見を取り入れたカリキュラム検討を行い社会が求める人材育成を実践して行きます。

### 3. 評価項目の達成及び取組状況

#### (1) 教育理念・目標

評価項目	適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1			
a. 理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野における職業教育の特色は何か)	④	3	2	1
b. 学校における職業教育の特色は何か	④	3	2	1
c. 社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	④	3	2	1
d. 学校の理念、目的、人材育成像、特色、将来構想などが学生保護者等に周知されているか	④	3	2	1
e. 各科の教育目標、人材育成像は、科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	④	3	2	1

#### ① 状況

- a. 教育理念・目的については4月のオリエンテーション時に配布する学生生活マニュアルに明記されており入学時に説明している。また、教育目標・人材育成像については、ホームページで公開している他、パンフレットにも掲載している。また、オープンキャンパス時に開催する保護者説明会において説明している。
- b. 企業と連携し社会で通用する実践力を養う事を特色としている。また、プロ育成の学科（声優アーティスト科、イラスト・マンガアニメ科）についてもプロダクションや出版社などと連携をとっている。特にプロ育成の学科については、オーディションや批評会を実施しており、担当者より学生に対して個別にアドバイスを頂いており学生の個性を活かすようにしている。
- c. 社会で必要とされる人材を育成する学科の新規設置やカリキュラムの変更を臨機応変に実施し、学科、コースの見直しを検討している。特に、カリキュラムについては、企業連携により、社会経済のニーズを考慮している。新設学科としては、令和元年度に「情報システム科」を立ち上げ、社会が必要としている AI 及び、IOT 分野にも力を入れ人材を育成し、令和3年3月に、第一期生が卒業した。
- d. 学生はホームルームや通常授業等で繰り返し説明し、周知徹底している。特に、「専門力」と「人間力」の育成については、チカラを入れている。また、保護者に対しては、オープンキャンパス時において保護者説明会を開催し説明している。その他、ホームページにも情報公開している。
- e. 各業界からの意見やアドバイスを参考にニーズを把握している。

② 課題・改善方策

- a. 教育理念については、ホームページで公開し情報公開している。また、入学後に実施するオリエンテーション及び、通常授業やホームルーム等でも繰り返し説明し、周知徹底したい。
- b. 各学科の特長に合わせた企業連携や取り組み方が必要である。どの学科科も年間計画を見直し企業連携の取り組みや現場実習などの方法に対し、企業と連携しさらにより良い職業教育を行いたい。
- c. 社会で必要とされている最新の技術などをどのように教育プログラムに取り入れていくのかを企業と連携しながら進めていく必要がある。
- d. 保護者には、オープンキャンパス開催時に保護者説明会で学校の理念、教育目標、学校の特色を周知しているが、保護者説明会に参加していない保護者に対しては、ホームページで情報公開していることを周知する必要がある。
- e. 広くニーズを把握するため、教育関連団体以外の外部団体が主催する研修会及び情報交換会に教員が参加する機会を増やしたい。その他、特に IT、AI 関連企業との連携の強化が必要であると考えている。

(2) 学校運営

評価項目	適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1			
a. 目的等に沿った運営方針が策定されているか	④	3	2	1
b. 運営方針に沿った事業計画が策定されているか	④	3	2	1
c. 運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	④	3	2	1
d. 人事、給与に関する制度は整備されているか	④	3	2	1
e. 教務、財務等の組織整備など意志決定システムは整備されているか	④	3	2	1
f. 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	④	3	2	1
g. 教育活動に対する情報公開が適切になされているか	④	3	2	1
h. 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4	③	2	1

① 状況

- a. 月次を実施される菅原学園運営会議にて職員を代表して教頭が出席し運営方針が策定される。
- b. 運営方針に沿った事業計画を教頭から説明があり職員に周知し実行している。
- c. 運営組織や意思決定の権限などは学園規定集により明記されている。
- d. 人事、給与に関する制度は学園規定集により明記されている。
- e. 教務、財務などの意思決定システムは学園規定集により明記されている。
- f. コンプライアンス体制に関しては学園規定集により明記されている。
- g. 教育活動についてはパンフレット、ホームページで公開している。
- h. 学園の情報システムが旧システムのため、老朽化の影響もあり不具合が発生する可能性がある。  
学校内では、グループウェアを導入し情報共有がスムーズに行われている。

② 課題・改善方策

- a b. 必要に応じて、菅原学園運営会議の議事録を教員に閲覧可能にし、周知徹底している。また、菅原学園内でコミュニケーションツールを活用し、必要な情報の共有化を図りたい。
- c. 毎年、組織については見直しを行い適切に対応したい。
- d e f g. 特になし。
- h. IT委員会が学園全体のシステムの効率化を図っている。しかし、学園全体のシステムが老朽化している。新システムを導入するにはコストがかかりすぐに改善できない現状がある。

(3) 教育活動

評価項目	適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1			
a. 教育理念等に沿った教育課程の編成実施方針等が策定されているか	④	3	2	1
b. 教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた科の就業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	④	3	2	1
c. 科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	④	3	2	1
d. キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	④	3	2	1
e. 関連分野の企業関連施設等、業界団体等の連携により、カリキュラムの作成見直し等が行われているか	④	3	2	1
f. 関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技実習等）が体系的に位置づけられているか	④	3	2	1
g. 授業評価の実施・評価体制はあるか	④	3	2	1
h. 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	④	3	2	1
i. 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	④	3	2	1
j. 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	④	3	2	1
k. 人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる用件を備えた教員を確保しているか	④	3	2	1
l. 関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するマネジメントが行われているか	4	③	2	1
m. 関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	④	3	2	1
n. 職員の能力開発のための研修が行われているか	4	③	2	1

① 状況

- a b c. 学科単位に設定された人材育成目標をもとにシラバスに沿って業界のニーズにあった教育を実施している。学習時間に関してはカリキュラム表に明記されている。
- d. 教員間でのミーティングや企業訪問などで業界の動向を把握し教育内容や指導方法の工夫などを検討している。
- e f g h. 各学科教育課程編成委員会（年2回実施）において、カリキュラムや企業連携のあり方に関してどうすべきかを検討している。
- i. 学生マニュアルで明記されており、それに従い運用している。特に、成績に関しては、学科ごとに全体の傾向を把握するために、個人の平均点を用いて客観的な指標の算出方法にて度数分布表を作成し情報公開している。

- j. 学科の目標とする資格対策はカリキュラムに適切な時間数の授業として組み込まれている。
- k. 担当している業界および該当教科に精通している教員を配置している。
- l m n. コロナ禍の状況において、研修スタイルも変化しており、職員の研修については、オンライン等の研修会などに参加し、最新の技術交流を深めている。

## ② 課題・改善方策

- a b c. 業界ニーズとしての教育目標レベルが高くなっているが、業界ニーズが必要とする目的レベルに到達可能な授業プログラムを検討する。シラバス作成については、科目担当講師へ配布しているシラバスの書き方について、マニュアルがあり、細かく表記しているが、担当講師により、表現方法にばらつきがあり、ばらつきをなくしたい。シラバスに関して、学生との約束事という意味ではしっかりと作成したい。
- d. 最新の技術情報などを取り入れるため、さらに企業と連携した教育カリキュラムなどを検討する。今後、各学科の最新技術情報をもとにカリキュラムに反映させたい。
- e f. 企業連携については今後、さらに積極的に進めていき、「教育の質の向上」を図りたい。
- g h. 各学科ごとの評価方法にばらつきがないようにしたい。連携企業から学科ごとに評価に対するアドバイス頂いているが各学科でばらつきがある。連携企業からの評価方法について学科ごとに見直しを行い改善したい。
- l m n. 職員研修に関しては今後、組織として参加することを積極的に進めていく。また、企業連携をとり最先端の技術レベルの研修会にも参加したい。また、コロナ禍の状況において、オンラインを活用した研修会等にも積極的に参加したい。

(4) 学修成果

評価項目	適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1			
a. 就職率の向上が図られているか	4	③	2	1
b. 資格取得率の向上が図られているか	④	3	2	1
c. 退学率の低減が図られているか	4	③	2	1
d. 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4	③	2	1
e. 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4	③	2	1

① 状況

- a. コロナ禍の影響により、ミュージックスタッフ科の求人が激減した。卒業後に、コロナ禍の状況が落ち着いたら音楽系に職に就きたいという学生もおり、卒業後の就職指導も実施する。  
現状は、クラス担任が中心となり個人面談で学生個々の状況を把握しながら就職指導を実施している。また、キャリアサポートセンターによる学生に対しての就職支援を行っている。特に、就職面接指導に力を入れている。
- b. 各資格単位に対策科目がカリキュラムに組み込まれておりシラバスで資格取得のスケジュールが計画的に図られている。
- c. クラス担任の個人面談を通して各学生の諸問題に臨機応変に対処している。ケースによっては、教頭が面接を行っている。また、スクールカウンセラーによるカウンセリングを実施している。退学率については、昨年度より低減された。
- d e. 在校生については、把握できているが卒業生に関してはキャリア形成への効果を含め十分に把握できていない現状がある。

② 課題・改善方策

- a. 就職に積極的でない学生や専門分野に適正がない学生対応が課題となり学生自身や保護者と話し合いながら進路を決めている。また、キャリアサポートセンターを中心に各科ごとの積極的な求人開拓が必要である。また、コロナ禍の状況の就職指導対策が必要である。
- b. スケジュール内で試験範囲が終了しない場合があるので補講等で対応している。特に、IT、情報系の資格取得の合格率を上げる対策が必要である。
- c. 担任以外に教頭（2人）のサポートを設けて対応している。また、精神的に問題を抱えている学生に関しては、専門のスクールカウンセラーの個人面談を実施し退学率の低減を図っている。
- d e. 卒業生の対応が学科ごとにばらつきがある。今後、卒業生とのネットワークを確立し状況を把握し意見を吸収していく必要がある。また、各学科ごとに卒業生がいる企業に対して企業訪問など積極的に実施し、卒業生の動向を図りたい。

(5) 学生支援

評価項目	適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1			
a. 進路就職に関する支援体制は整備されているか	④	3	2	1
b. 学生相談に関する体制は整備されているか	④	3	2	1
c. 学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	④	3	2	1
d. 学生の健康管理を担う組織体制はあるか	④	3	2	1
e. 課外活動に対する支援体制は整備されているか	④	3	2	1
f. 学生の生活環境への支援は行われているか	④	3	2	1
g. 保護者と適切に連携しているか	4	③	2	1
h. 卒業生への支援体制はあるか	4	③	2	1
i. 社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4	③	2	1
j. 高校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	④	3	2	1

① 現状

- a. 進路（就職）担当及びキャリアサポートセンターから発信される情報を参考とし、クラス担任を中心とする支援体制を整備している。
- b. 学生相談については、クラス担任および教科担当教員との面談により対応している。また、スクールカウンセラーもおり、希望者については、カウンセリングを行っている。
- c. 学生の経済面に対する支援制度として学園の奨学金制度や学費分割納入制度が整備されている。令和2年度からは、高等教育の修学支援対象校になり、住民税非課税世帯及びそれに準ずる世帯の学生に対して、国から給付型の奨学金の援助を受けることが可能となった。
- d. 学校保健法に基づき、毎年健康診断を実施している。
- e. 課外活動として、学園祭、音楽イベント、作品展、公演などを開催し支援している。
- f. 菅原学園提携の学生会館及び、学生マンションを必要に応じて紹介し快適な住環境の提供を支援している。
- g. 保護者には、出席状況を1ヶ月～2ヶ月単位、成績状況を前期・後期末、夏・冬休みの案内を休み直前に郵送している。また、学習面、生活面、進路に関して随時相談し連携している。
- h. 希望があれば卒業生の再就職時の求人情報の提供などを行っている。
- i. 関連企業の意見を取り入れ、各業界で実際に使用されている最新の機材・設備を整える事を目標としている。
- j. 高校との連携をとりIT, CG系分野及び、イラスト・マンガアニメ科の授業を実施し専門技術への関心を高める支援を行っている。



② 課題・改善方策

- a. キャリアサポートセンターを進路指導（就職）の統括部署としクラス担任と連携していく必要がある。
- b. 精神的な問題を抱えている学生が増加傾向にある。専門のスクールカウンセラーを配置し状況に応じて学生面談を実施している。今後、学生相談室など学生が気軽に相談できる場所を設けたい。その他、全学生を対象とした教頭面談を実施し、学生の相談に応じたい。
- c. 特になし。
- d. 体調不良の学生に対しては、市販薬で対応している。また、急病時には、校医である佐藤病院（周行会）に連絡し、受け入れ体制を整えている。その他、校内に保健室があり体調不良の学生については、休む事ができる。
- e. 学科においてばらつきがある。今後は、企業との連携をとり関連技術の習得に活かせる取組を図るようにしたい。
- f. 特になし。
- g. 学校の方針の説明や学校行事など学生を通して年間スケジュールの案内をお知らせしている、今後は、状況に応じて、郵送やホームページ等で知らせる必要がある。
- h. 各学科ごとの卒業後の集会などは開催しているが、今後、学校主催の同窓会を開催するか否か検討する必要がある。
- i. 予算の関係ですべて新しくする事が難しい。
- j. 高校側とのキャリア教育・職業教育の連携を増やして行く必要がある。

(6) 教育環境

評価項目	適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1
a. 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4 ③ 2 1
b. 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4 ③ 2 1
c. 防災に対する体制は整備されているか	4 ③ 2 1

① 状況

- a. 施設・設備に関しては年度毎に予算の中で見直しを行っている。各学科単位に新設備の提案書を提出し学校全体の新設備の予算を把握し優先順位に従い整備している。
- b. インターンシップについては正規の授業に影響が出ないように考慮しながらケースバイケースで対応している。実習施設については順次、予算内で整備している。
- c. 危機管理マニュアルを見直し、防災時の体制を整えている。また、避難訓練を年1回実施しており、避難経路を再確認し周知徹底している。尚、飲料水の備蓄に関しては、オープンキャンパス時に配布する飲料水を非常用として転用できるようにしている。地元、本町商店会振興組合及び本町新光町内と連携し協力体制をとっている。

② 課題・改善方策

- a. 学科の学生数により予算に偏りが出る。  
受動喫煙対策を強化した改正健康増進法の完全施行に伴い、文部科学省からも第一種施設である学校の敷地内は屋内外共に禁煙とすることが原則であるとの指針が示されていることに鑑み、当学園の学校及び関連施設については屋内外を問わず令和3年度4月から完全禁煙とすることとした。
- b. 企業とタイアップしインターンシップを正規の授業に取り入れているが、コロナ禍の状況で例年より十分な整備が取れない状況である。今後、オンラインでの対応など検討が必要である。学
- c. 災害時の避難所として学校を提供するには現状では、不十分である。今後、防災グッズをはじめ、飲料水や非常食など対策準備を進めたい。

(7) 学生の受入れ募集

評価項目	適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1			
a. 学生募集活動は、適正に行われているか	④	3	2	1
b. 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	④	3	2	1
c. 学納金は妥当なものとなっているか	④	3	2	1

① 状況

- a. 入学相談室を中心に学校外の広報活動として進路ガイダンス、模擬授業、会場ガイダンスなどを実施している。学校内の広報活動としてはオープンキャンパス、個別相談会を行い適正に学生募集活動を行っている。コロナ禍の状況の中で、密集を防ぐため、来校希望者に対しては、土・日・祝日に個別相談会を実施し、また、来校不要な LINE による個別相談会も実施した。
- b. 学生募集活動の一環であるオープンキャンパスにおいて学生の制作した教育成果として（デザイン作品集、イラストアニメ作品、CD 作品（楽曲、ドラマ CD 等）CG 作品、ゲーム作品）学生の作品を紹介するとともに就職状況、資格取得状況も合わせて説明している。また、作品に関してはホームページでも公開している。その他、オープンキャンパス開催時に保護者説明会も実施している。
- c. 学納金は、授業料、施設設備費、教材実習費などから構成され年度ごとに理事会で妥当な学納金を協議し、評議委員会に諮り理事会の承認により決定する。

② 課題・改善方策

- a b c. オープンキャンパスでの模擬授業の内容や説明方法を再検討し入学生数の増加を図る。また、参加者に対してアンケートをとり、その結果を参考にオープンキャンパスの運営方法などを再検討したい。

(8) 財務

評価項目	適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1
a. 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	④ 3 2 1
b. 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	④ 3 2 1
c. 財務について会計監査が適当に行われているか	④ 3 2 1
d. 財務情報公開の体制整備はできているか	④ 3 2 1

① 状況

a b c d. 財務に関する情報は、HP上に情報公開している。

② 課題・改善方策

a b c d. 今後も必要に応じてHP上に情報公開していく。

(9) 法令等の遵守

評価項目	適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1
a. 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	④ 3 2 1
b. 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	④ 3 2 1
c. 自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	④ 3 2 1
d. 自己評価結果を公開しているか	④ 3 2 1

① 状況

a. 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされている。

b. 学園の規定集にて詳細に定められている。年度初めの講師会で個人情報の取り扱いについて説明している。個人情報に係わる廃棄物については職員室の個人情報廃棄箱を設け定期的にシュレッターにかけている。

c. 自己評価に関しては実施しており、問題点の改善に努めている。

d. HPに公開している。

② 課題・改善方策

a b c d. 特になし。

(10) 社会貢献・地域貢献揭示

評価項目	適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1			
a. 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4	③	2	1
b. 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4	③	2	1
c. 地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4	③	2	1

① 状況

- a. コロナ禍の状況の中で、例年どおりのイベント開催は出来なかったが、宮城県高等学校文化連盟軽音楽専門部と協力し、高校対抗バンド合戦などは、無観客で実施した。
- b. ミュージックスタッフ科及び声優アーティスト科は市民参加型のイベント（とっておきの音楽祭、定禅寺ストリートジャズフェスティバル、伊達アカ、青葉区民まつり、仙台ゴスペルフェスティバル）にボランティアとして参加しイベントを支えていたが、コロナ禍の状況の中ですべてのイベントが開催できなかった。
- c. 例年、企業と連携し CSS Nite（シーエスエス・ナイト）を開催し、デザイン科がサポートしていたが、コロナ禍の状況の中で、開催できなかった。

② 課題・改善方策

- a. b. c. コロナ禍の状況でも、オンライン配信などを活用し、状況に応じて、社会貢献・地域貢献できるよう検討したい。

(11) 国際交流

評価項目	適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1
a. 留学生の受け入れについて戦略を持って国際交流を行っているか	④ 3 2 1
b. 受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続きがとられているか	④ 3 2 1
c. 学習成果が評価される取組を行っているか	④ 3 2 1
d. 学内で適切な体制が整備されているか	④ 3 2 1

① 状況

- a. 本学園の留学生サポートセンターおよび外国人留学生担当教員（国際情報ビジネス科担任）が連携して、在仙の日本語学校を中心に、定期的な情報交換を実施。出身者国籍の変化・動向・ニーズを踏まえ、留学生の募集活動を行っている。
- b. 留学生の受け入れは、申請取次者の資格を有する担当教員が適正に行っている。在籍管理は、本学園の留学生サポートセンターと学科担任が連携して、授業欠席者への連絡や指導および面談など、きめ細かな対応を実施している。また、外国人留学生受け入れ校は、**出入国在留管理局**への各種届出・報告（受入・離脱、在籍報告、等）が義務づけられており「適正な届出・報告」が求められる。さらに、外国人留学生受け入れ校の中でも「在籍管理が適切に行われていると認められる専修学校専門課程」として、出入国在留管理局より「適正校」の選定をいただいている。
- c. 学習成果として、取得資格・就職先・大学進学先、等を掲載した外国人留学生向けの入学案内書の作成・配付および、ホームページ上に掲載している。
- d. 本学園の留学生サポートセンターと**クラス**担任が連携して留学生に対応しており、支援体制は十分整っていると考える。

② 課題・改善方策

- a. ここ数年間は、ベトナムやネパールを中心とした外国人留学生が多く入学している。本学園留学生に対する教育理念として、幅広い国籍からの留学生を受け入れ、一層のグローバル化を打ち出していきたいが、**コロナ禍で出入国制限が設けられていることもあり、状況確認を行いながら入学生獲得に結びつけられるような募集活動を展開していきたい。**
  - b. 現在の対応を継続させ、引き続き適正校として選定されるような学校づくりに努力を継続する。
- c. 非漢字圏から入学してくる外国人留学生の特徴として、漢字の習得に時間がかかることは否めない。日常会話はある程度できるが、本来、専門学校の教育・カリキュラムにおいては専門科目に特化した教育に取り組むべきところであるが、日本語能力の底上げを図るサポート科目も必須の現状である。ビジネス系の資格検定（ワード・エクセル・簿記検定など）受験対策として、日本語能力の向上を図るためのカリキュラムや教材の選定に取り組んでいるところである。専門科目については、オリジナルのワークシート型教材の開発・導入など、工夫をかかさず、授業を行っ

ている。また、外国人留学生と日本人学生との交流を視野に入れたプログラムも企画立案している途上である。

- d. 今後とも支援体制の強化をはかりながら、日本への大きな希望をいただいて留学してきた学生たちの満足度を向上させるべく指導にあたっていきたい。